



2022年4月21日

報道関係者各位

慶應義塾

福澤先生ウェーランド経済書講述記念講演会 開催 (5/13)

「慶應義塾における教育研究の産業界への貢献～現代の実学とは?～」
(鈴木哲也 慶應義塾大学理工学部教授)

慶応4年5月15日(1868年7月4日)、戊辰戦争のさなか、上野で官軍と彰義隊の戦闘が行われ、砲声殷々として江戸市中に響きわたる中、福澤諭吉は芝新銭座の慶應義塾において、悠然と土曜日の日課である『ウェーランド*経済書 (*The Elements of Political Economy*, 1866)]の講義を続けていました。

慶應義塾では、世の中にいかなる変化があっても、学問教育を尊重した福澤の精神を長く伝えるために、5月15日を「福澤先生ウェーランド経済書講述記念日」とし、1956(昭和31)年より記念講演を行っています。

本年は、「慶應義塾における教育研究の産業界への貢献～現代の実学とは?～」と題し、鈴木哲也 慶應義塾大学理工学部教授が5月13日(金)に講演いたします。つきましては、イベント欄への掲載および、当日のご取材のほどよろしくお願ひいたします。

※フランシス・ウェーランド(1796-1865 米国ブラウン大学 第4代学長)

1. 開催概要

日 時：2022年5月13日(金) 14時45分～16時15分(開場14時)

講演者：鈴木 哲也(すずき てつや) 慶應義塾大学理工学部教授

演 題：「慶應義塾における教育研究の産業界への貢献～現代の実学とは?～」

講演概略：バブルの崩壊後、日本の産業界、特に製造業は弱体化している。その頃から、大学の研究開発への期待は大きくなった。「果たして大学の研究は産業界にどれだけ貢献できるのだろうか?」。この問いは、過去、現代、そして未来も続いていくだろう。総合大学としての強みを生かし、今後、義塾の教育研究活動は、どのように連携し、どのように実社会に貢献できるのか?

申 込：事前申込要

慶應義塾のウェブサイト Events のフォームからお申し込みください。

<https://www.keio.ac.jp/ja/events/>

※当日は新型コロナウイルス感染症対策に十分ご注意のうえ、ご来校ください。また感染防止のため、会場内での懇談等はお控えください。

場 所：慶應義塾大学三田キャンパス 北館ホール

(感染対策のため、間隔を空けて着席いただきます。)

交 通：東京都港区三田 2-15-45 JR 山手線・京浜東北線 田町駅下車(徒歩約8分)

都営地下鉄浅草線・三田線 三田駅下車(徒歩約7分)

都営地下鉄大江戸線 赤羽橋駅下車(徒歩約8分)

<https://www.keio.ac.jp/ja/maps/mita.html>

2. 講師プロフィール

鈴木 哲也 (すずき てつや) 慶應義塾大学理工学部教授

経歴・役職等

東京工業大学工学部無機材料工学科卒業、同大学大学院原子核工学専攻博士課程修了（工学博士）。

米国 Case Western Reserve University, Research Associate、株式会社タンガロイの技術研究所を経て、1996年に慶應義塾大学理工学部機械工学科専任講師に着任、2005年より現職。この間、学内では先端科学技術研究センター所長や研究連携推進本部本部長を務め、2022年4月より理工学部中央試験所所長に就任。2021年より公益財団法人川崎市産業振興財団理事。

産業界との連携活動

・主な国プロジェクト関連

神奈川県 環境調和型機能性表面プロジェクト研究リーダー（2006-2011）：低コストプラズマ技術の開発。

文部科学省 都市エリアプロジェクト研究リーダー（2006-2008）：神奈川県に公共試作ラボを開設し約150社が参加。

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）ナノテクチャレンジプロジェクト研究リーダー代行（2008-2012）：医工連携によるステントの開発。

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）日本-フィンランド交流事業研究リーダー（2009-2011）：フィンランド企業との研究開発。

関東経済産業局 低炭素社会に向けた技術発掘・社会システム実証モデル事業研究リーダー（2009-2010）：ペットボトルの再利用を目指し、神奈川県において実証実験。

・企業との共同開発

新幹線高架橋へのダイヤモンドライクカーボン薄膜の適用（東海旅客鉄道株式会社、積水化学工業株式会社）、高ガスバリア性ペットボトルの開発（キリンビール株式会社、サントリーホールディングス株式会社）、プラスチック自動車窓の開発（株式会社豊田自動織機、ダイキョーニシカワ株式会社）、スウェーデンテトラパック本社との紙容器開発、抗血栓性ステント開発（テルモ株式会社、川澄化学工業株式会社（現SBカワスミ株式会社）、横浜-関内間の道路下のコンクリート整備（積水化学工業株式会社）。これまで約70社と共同研究を実施し、特許多数。また国際的には、台湾工業技術院技術顧問（2008-2017）として大気圧プラズマ技術の共同開発。現在はニプロ株式会社技術顧問、三菱鉛筆株式会社技術顧問。

* ご取材の際には、事前に下記までご一報下さいますようお願い申し上げます。

* 本資料は文部科学記者会、各社社会部・文化部等に送信させていただいております。

【本発表資料のお問い合わせ先】

慶應義塾広報室（小川、望月）

TEL：03-5427-1541 FAX：03-5441-7640

Email：m-pr@adst.keio.ac.jp <https://www.keio.ac.jp/ja/>